

2014年



謹賀新年

今年もよろしくお願いたします

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

明けましておめでと
うございます。

「一年の計は元且あり」と言われるように、例年ならば年のはじめにはそれなりに期待に胸を膨らませて、一年間の計画や予定等を思い浮かべながら、あれこれと夢を描くのが通例でした。

しかし、今年の私たちをとりまく様々な状況は、私たち庶民のさまざまな夢を描く自由心のゆとりも奪い取ってしまったように感じているのは私だけでしょうか。

景気が良くなつたのは輸出関連の一部の大企業のみ、私たちにはガソリンや灯油価格の高止まりを始め、消費税の増税や医療費の負担増などの生活苦を予測されるものだけが目

の前にぶら下がっているようです。終息の目途が立たないフクシマ原発もその一つでしょう。安倍首相の靖国神社参拝で中国・韓国はもちろんEU諸国からも批判をされただけでなく、米国からもその行動に「失望」されてしまいました。秘密保護法などと一体「戦争のできる普通の国」への地ならしの一環でしょうか。

TPP・減反の廃止等で日本の農業も大きく変わる第一歩を踏み出す年になりそうです。TPPで思い出すのは新潟県農協中央会元会長村山正司さん(津南町農協組合長)です。村山さんにはじめてお会いしたのは米国が米の自由化を迫ったGAATTウルグアイ・ラウンド交渉に反対する立場で民間団体の代表として世界中を駆け巡っておられた最中でした。若気の至りで「地方の組合長である村山さんが、なぜ世界を相手に運動



をなさるのでですか」とお聞きしてしまいました。あまりにも幼稚で失敬な質問にも関わらず、村山さんは丁寧に「グローバル化している世界の情勢を踏まえて農業も考え、対処していなければならない」ことを丁寧に説明して下さったのです。その後数年後に転勤で十日町に赴任し、津南町農協に上司の課長と着任のご挨拶に伺った時、非常勤の村山組合長が珍しく在室しておられました。「課長はテレビでも見ていなさい」と、私一人が村山さんの自

家用車に乗せていただけで「マントパークスキ―場」に案内されました。村山さんに「なぜここに来たか判るか」と問われ、「長野県境から十日町まで、中魚沼の河岸段丘が一望できます。これが中魚沼の農業の全体像ですね」とお答えしました。当時、「魚沼コシヒカリ」は大変な高値でしたが、村山さんは「こんなのは異常だ。いつまでも続かん。かつて津南は酒米『五百万石』が2万俵生産されていた。今では2千俵しかない。生産者の安定した所得を確保するために何とかしなければならぬ」といつておられ、酒米談義をしたのですが、その後酒蔵「小松原醸造」を設立し、「霧の踏」の銘柄で地元の酒米を活かしています。あるとき転作大豆についてお聞きしたこともありましたが「新潟の大豆の品質が悪く反収も少ないことについて、関係機関でデータを調

べた。理由は『秋雨前線』にあることが判った。秋雨前線だけは技術対応ができない。自分の需要分以外は作らない」とのことでした。国を挙げて転作大豆の作付けを奨励していた時ですが、村山さんは津南の気候風土を踏まえて、国の政策であっても簡単に受け入れることはしませんでした。村山さんは平成二十年に九十三歳で天寿を全うされました。村山さんには仕事での関係を超えて多くのことを学ばせていただきました。ご存命ならばTPPについて、どのように分析されて対処されたらろうと思わずにはおられません。

《裏面に続く》



農業を輸出産業にする」マスコミは「日本のと、政府の農業政策を喧伝していますが、農政の基本は自国の国民の食糧の安全・安定確保であり、そのための農業をどのような道筋で長期展望にたつて育成するかではないでしょうか。輸出を重視するならば、少数の商社があれば済むことです。北海道の大豆生産者が大豆の輸出をおこなうと報道されましたが、日本の大豆の自給率は驚くほど低いことを皆さんもご存じでしょう。大規模化による効率的な農業生産ともいわれていますが、そうならば中山間地の農業はわずかばかりの補助金では最初から成り立ちません。今でさえも危機的な状態にある山間地の集落機能の崩壊と、伝統的な日本文化の喪失につながることでしよう。当然にして水源地域の環境劣化が避けられません。

昨年秋に長滞で中学校の同級会をおこないました。翌朝に河原を散歩している時に同級生の一人が「佐渡でトキを全滅させてしまった人間が、トキの自然復帰事業をおこなっているが、表面的な行為は全く逆に見えるものがあるのでは、共通のものが話しかけてきませんでした。生産性優先の経済合理主義がトキを全滅させ、今また人間のエゴでトキを復活させようとする人間の浅はかさを指摘したかったのではありませんか。私たち人間もトキと同じ、いやトキの餌であるドジョウやカエルとも同じ地球上の生き物の一種であることを忘れてくれないものです。ちなみに彼は新潟市で居酒屋の親爺をやっているとのことでした。

取り巻く情勢がいかにも厳しく見通しの立たない状態にあつても、おいそれとこれまでの

百姓を廃業することは難しいでしょう。どちらかといえば私たち生産者も「猫の目農政」と農政批判を続け、被害者意識が強かったことも否定できないのではないのでしょうか。TPPや農政の転換期を迎え、困難な情勢は否定できないでしょうが、一喜一憂したり振り回されたりせず、それぞれの生産者が自ら置かれた状況の中で、一人ひとりの個別の展望を切り開くことが求められているでしょう。頼らず流されず、自立した考えや経営方針を自らのものにしたいたいのです。

《内山常蔵記》

株式会社 あきは農場

6次産業化への挑戦

閉鎖型植物工場で低カリウムレタス栽培に成功!



新潟県6次産業化サポートセンターの協力で、2名のプランナー（食品加工・販売商品企画）がサポートに加わり、腎臓病患者が食べられる低カリウムレタス（通常のレタスよりカリウムが1/4程）栽培に成功しました。低カリウム技術は、秋田県立大学の技術を活用。今夏から本格的な販売を開始します。

大手百貨店では特設コーナーが設けられています

「米」生産から加工・販売へ!

6次化に興味のある方は、(有)エコ・ライス新潟までお問い合わせください

■ 新潟県6次産業化サポートセンター <http://www.niigata-agrisupport.jp/>

6次化とは、1次・2次・3次の各産業分野において、多様な主体が自らの強みを活かして他産業にも分野を拡大し、または相互に連携・融合しながら付加価値を向上・創造する取組み

新潟県6次産業化サポートセンター

農産物産出と連携を促す加工業者の確保へ

農産物産出と連携を促す加工業者の確保へ

農産物産出と連携を促す加工業者の確保へ